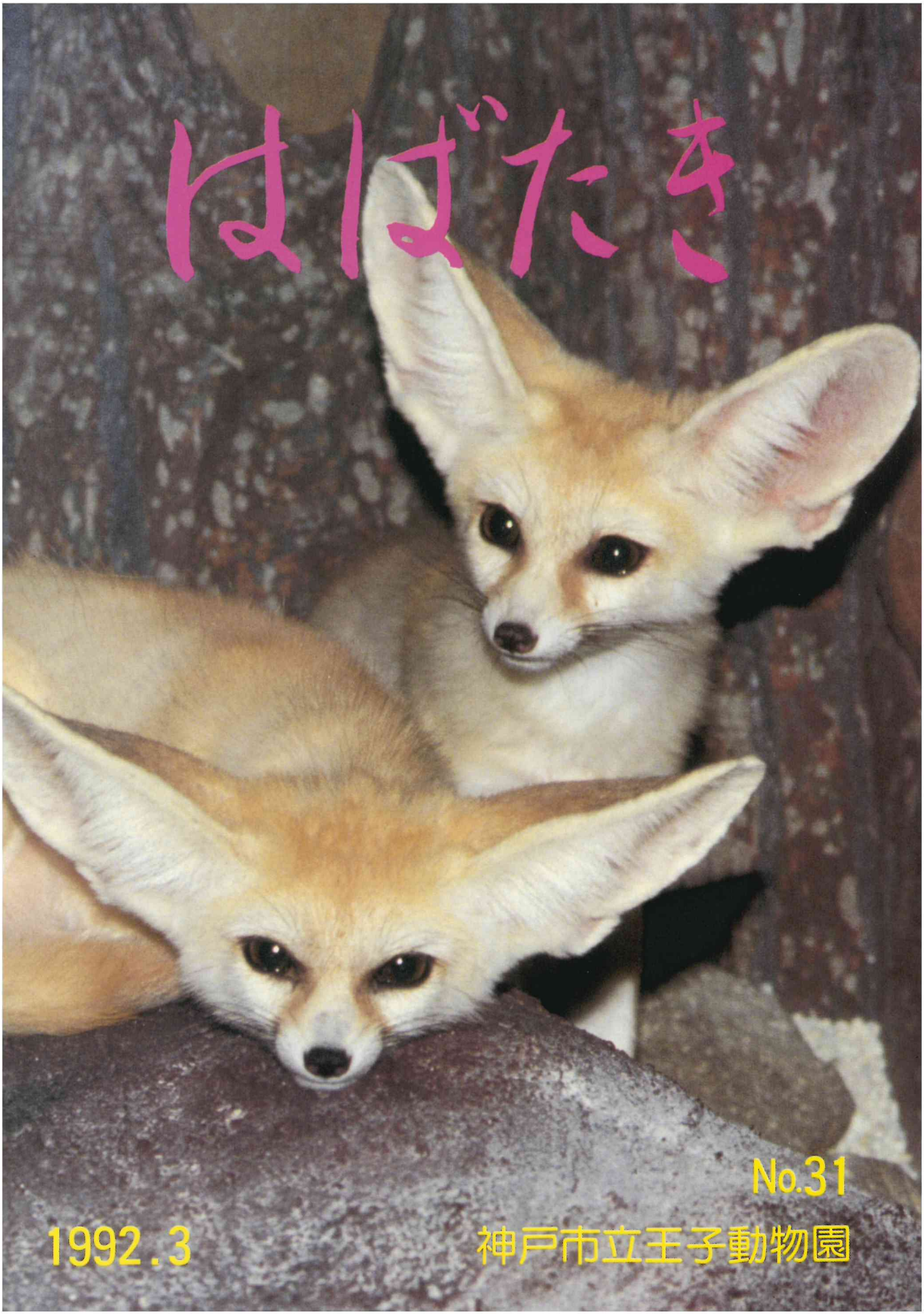


はばたき

No.31

1992.3

神戸市立王子動物園

秋篠宮殿下をお迎えして

(社)日本動物園水族館協会主催
第4回種保存委員会拡大会議が王子動物園で開かれる

平成3年10月7・8日の2日にわたり、王子動物園で開催されました。この委員会は絶滅の危機にある野生動物を動物園や水族館の手で永遠に保存することを目的とし、日本全国の動物園や水族館の協力を得て発足したもので、実態調査や血統登録などを実施して計画的で適正な繁殖計画をつくり、すでに実行に移っています。このため、年1回、この事業に携わる担当者が集まり、進行状況や今後の計画、課題を討議し、適切な種の保存を円滑に進めるとともに国際的な視野にたって全世界に呼びかける重要な会議です。

会議を熱心にお聞きになる殿下

今回は日本動物園水族館協会の総裁をされておられます秋篠宮殿下のご臨席のもとに、アメリカからフーズ博士を招き、全国の動物園水族館からこの事業に携わる担当者約150名が出席し、2日間にわたり熱の入った討議があり、大変盛り上がった会議でした。

こどもたちの歓迎をお受けになりながら
動物とこどもの国へ入られる殿下

ナマケモノのこどもをお抱きになる殿下

秋篠宮殿下は会議の報告や討議に終始熱心に耳を傾けられ、休憩時間にはロビーで参加者といっしょに親しくご懇談されました。また、会議の合間をぬって王子動物園内にある新装の動物とこどもの国や太陽の動物舎、小ザル舎、動物科学資料館などを熱心にご見学になり、太陽の動物舎ではナマケモノのこどもを目を細めてお抱きになったり、各所で専門的な質問もなさいました。会議終了後「種の保存について関心の高まりを実感し、国際的な連携の重要性を強く感じました」と会議の感想を述べられるとともに関係者の労をねぎらわれました。

神戸市立王子動物園長　谷岡正之

もくじ

ページ

1. 秋篠宮殿下をお迎えして……②
2. 動物園リフレッシュ……③
3. 動物育児日記……⑤
   1) かわいいオシドリのひな誕生……⑤
   2) ワオキツネザルの赤ちゃん誕生……⑦
4. もう神戸の生活に慣れました(コアラ)……⑧
5. 飼育うらばなし……⑩
   1) コアラ奮戦記……⑩
   2) ふれあい広場のウサギたち……⑪
6. 動物なぜなぜ問答……⑫
   1) カバのプールはきたない?……⑫
   2) サルには利き手がありますか?……⑫
7. 動物もの知り手帳……⑬
8. 動物科学資料館の手引⑩……⑭
9. トピックス……⑮

表紙写真　フェネック

写真撮影　谷岡　正之

英名	Fennec Fox
学名	Vulpes zerda
生息地	北アフリカ

動物園リフレッシュ

（動物園再編整備5ケ年計画）

王子動物園は第２次世界大戦後の混乱期もどうやら落ち着きはじめた昭和26年３月21日に、戦前からあった諏訪山動物園の生き残りの動物たちと新たに来たインドゾウの諏訪子を主役に59種、350点の動物を展示して開園しました。

その後、歴史を重ね、昭和62年には動物科学資料館を開館し、昨年は開園40周年を迎え、10月に動物とこどもの国がオープンのはこびとなりました。現在は、193種、1300点の動物たちが暮らす我が国でも有数の動物園として発展してきました。

動物園はレクリェーションの場だけでなく、博物館としての教育の場でもありますが、現在、強く求められていることは貴重な野生動物の種族の保存、野生から動物を捕まえて見せるのではなく、飼育している動物たちを繁殖させ、次代に子孫を引き継ぐ仕事なのです。このため動物舎は動物たちが安心して健康に暮らせ、子供を生み、育てていくことができる施設でなければなりません。しかし、残念なことに開園当時に造った動物舎は鉄檻と四角いコンクリートの建物が主で、築後40年を経て老朽化が著しく、改築が待たれていました。

類人猿放飼場▲

類人猿室内展示室▲

そこで、これからの動物園はどうあるべきかを検討し、王子動物園再編整備５ケ年計画が策定され、平成元年からこの計画の実現をめざして動き出しました。

この計画の主題は①老人から子供たちまでの広い年齢層の皆様に楽しんでいただけるもの。②社会教育施設として十分な教育的配慮がされているもの。③動物たちが健康で長生きでき、子供を生み、育てることができる環境であるもの。④自然保護、動物愛護の精神に沿うもの。としております。

まず、第１番目は平成２年に築後40年を経たヒヒ猿類舎と中型猛獣舎の新築、改築をしました。中型猛獣舎は壁面に岩山を配し、地面は草や樹が植えられ、鉄檻をやめて大きなガラス窓から動物を見ることができます。生まれた子供の子別れの時期には分離飼育ができる予備室が確保されています。ヒヒ猿類の運動場はサルたちが上下に運動できる高い木組のある広い容積があり、大きいガラス窓から見ることができます。寝室もガラス窓から見られ、寒さ・暑さから動物を守る空調設備も完備しています。

第２番目は平成元年度から３ヵ年計画で新しい園地8,000㎡に「動物とこどもの国」を完成させました。もう皆さんもご覧になっておられることでしょうが、ここには神戸市の姉妹都市、オーストラリアのブリスベーン市から贈られたコアラがいます。ここでも動物の健康を十分に配慮して造られています。アイドル動物のレッサーパンダやカワウソ舎は自然環境を配した放飼場があり、もちろん鉄檻はなく、生き生きと動物たちは暮らしています。リスと小鳥の森は神戸の背山の六甲山の自然環境を再現した放飼場に人と動物が同じ空間で観察できるものです。

もちろん、ふれあい動物ゾーンは動物たちと一体となって楽しめ、女性飼育スタッフが愛情こまやかにウサギやモルモットの抱き方を教え

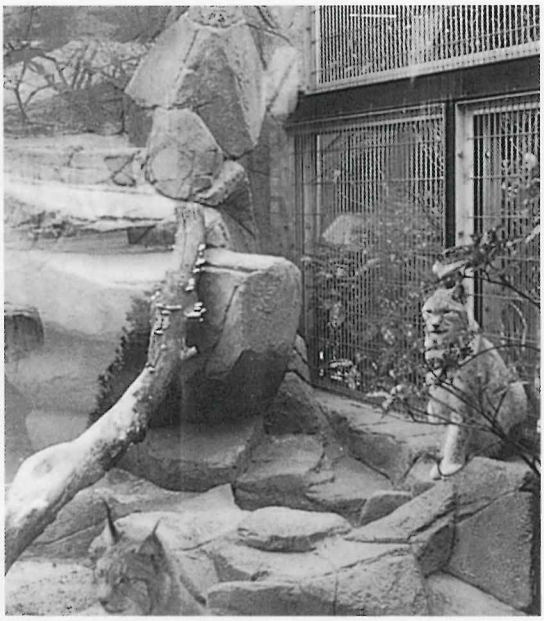
てくれます。

第３番目は平成４年３月中に完成の予定で現在工事を進めている類人猿舎です。ここは樹や草地のある広い運動場があり、室内展示場も設けられ、どちらも大きなガラス窓から動物たちを観察することができます。もちろん床暖房や空調設備があり、十分な健康管理ができますし、予備の寝室を多く用意して将来の群れ飼育ができるようにしてあります。

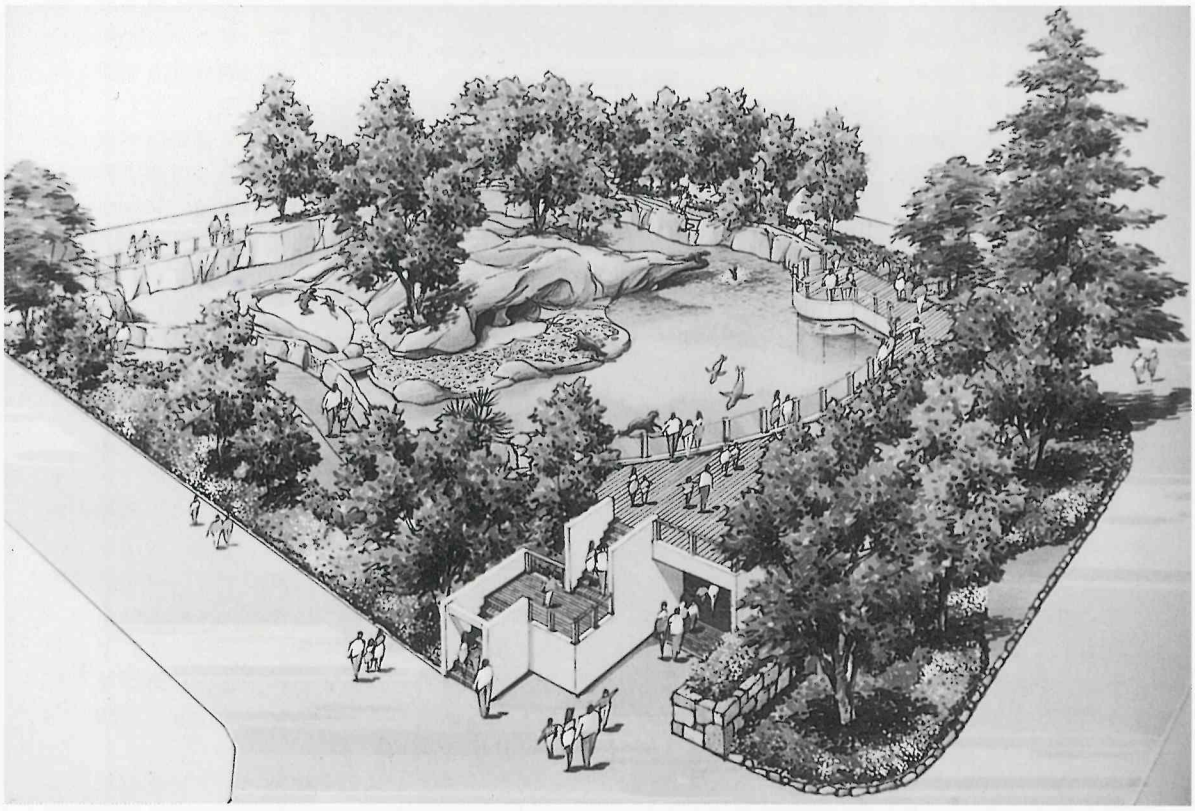
第４番目は平成４年度に工事を始めるアシカ舎です。広いプールと自然の情景を取り入れており、水中生態が観察できるガラス窓のあるトンネル式の観覧通路があります。

今後も引続きクマ舎、シロクマ舎や広い敷地の草食動物ゾーンの改善をしていく予定ですが、王子動物園の大改造となり、これまで、うまくできていなかった種別展示手法、猿類ゾーン、猛獣ゾーン、食肉目動物ゾーン、草食動物ゾーンと順次整備していきます。いずれも最初にお話ししましたように、動物たちがより自然に近い環境で子孫を生み、育てることができて、皆様に愛される動物園をめざして整備していきます。

（権藤真禎）



中型猛獣舎



アシカ池完成予想図

動物育児日記

かわいいオシドリのひな誕生

ある日の午後のことでした。新人飼育員Ａ君が「オシドリのひなが生まれましたよ……」と言って私の所に飛んで来ました。

その顔は一面に喜びがあふれていました。私もすぐにケージに走りました。見ると親鳥に寄り添い６羽のひなが水面に浮かんでいました。あの時のうれしさは私の心に今も残っています。

なぜ、これほどに喜びを感じるかと言いますと、王子動物園では、今までオシドリが生まれず、今年初めて繁殖したからです。この陰には新人飼育員Ａ君の努力を語らずにはいられません。

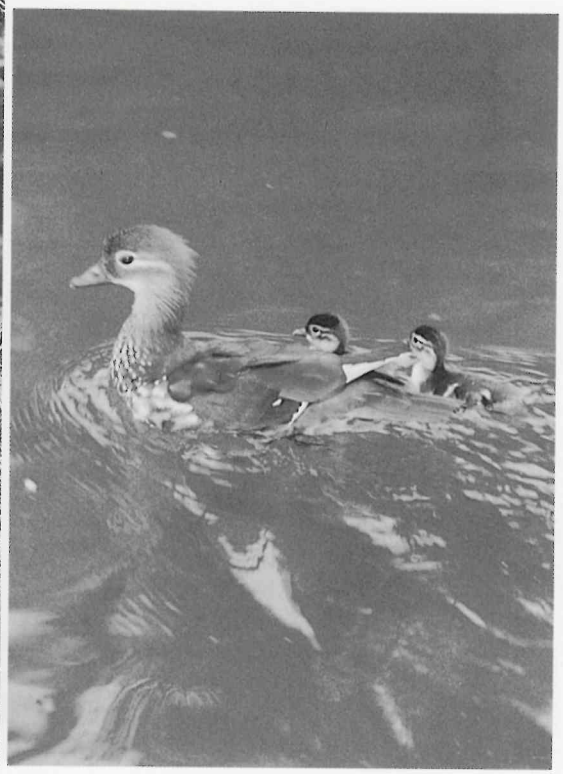
今まで二ケ所で飼育していた「オシドリ」を大きなフライングケージに移し、ケージ内には、「ほこら」式の巣箱を作り、高さ５ｍほどの木に掛けました。また、ひなをイタチ、ヘビなどから守るためにケージ内の一部を仕切り、「ひな」をうまく誘導して親鳥を呼び寄せる工夫をして、今年はなんと60羽ちかくのひながフ化したのでした。

繁殖させるのに苦労をすればするほど、ひながフ化した時の喜びようは、人に言い表わせないものがあります。

ところで、オシドリのひなは生まれるとすぐに親鳥と一緒にまずプールに向かって走って行きます。生まれた時の体重は30ｇほどです。

全体は薄い黄色で黒い斑点があります。

まるで、綿帽子が浮いているようでした。50



日ほどで親鳥と同じ大きさに成長し、この頃から新しい羽も生えはじめて、5カ月になると、まったく親鳥と見分けがつかないほどになります。

「オス」の美しい扇羽は6月から8月にかけて抜けて「メス」と同じような羽になってしまい、一般の人には見分けがつかないように変わってしまいます。

こんな羽の変わり方を専門用語で「エクリプス」換羽といいます。

「エクリプス」とは、太陽が月の影に隠れて暗くなる「日食」という意味です。

これまで輝くような飾り羽に包まれていたのが一変して暗くなってしまうので、このような呼び方をするそうです。

今年は、これだけ繁殖をさせた理由は他にもあります。六甲山系に放し、一般の人々にも、野生の姿を見て、自然の尊さを知ってもらうと同時に野生に戻すという計画を進めるためです。

六甲山には、毎年10月の終り頃になると、オシドリがたくさん北国から渡ってきます。

そのオシドリと動物園で繁殖させた個体とが一緒に春になると北国に帰り、再び六甲の山に戻ってくることを期待しています。

最後になりましたが、私達人間だけが、生活の便利さと潤いを求めて、自然をこわして開発してきました。その結果、たくさんの動物達が絶滅に瀕しています。オシドリも少なくなってきているといわれています。そんな動物達を、動物園で繁殖させて野生に戻し、人間とうまく共存できるとよいと思います。

皆様は、どう思われますか？……。

（鈴木　忠）

放鳥風景

ワオキツネザルの赤ちゃん誕生

「皆さんはもう私の元気な赤ちゃんをご覧になりましたか？。今とってもかわいらしいんですよ。そうそう私の名前を言い忘れていましたね。私の名前はワオキツネザル。マダガスカル島だけにしか住んでいない、ちょっと珍しいサルなんです。この名前、私の姿を見てもらえばすぐに分かると思いますが、何でも私達のしっぽに輪の模様があるからって、付いたらしいんです。でもこの輪の模様には大切な意味があって、仲間同士の目印みたいなものなんですよ。だから見に来てくれた時には、かわいらしい赤ちゃんだけじゃなくて、私達の姿もしっかりと見てくださいね。

ところで、私のかわいい赤ちゃんですが、去年の11月24日、午後１時20分頃に生まれました。何と、双子だったんですよ。生まれたての赤ちゃんはとても小さくて、10cm位しかなかったのですが、握りしめる手の力はしっかりしていて、私のお腹に、まるでぴったりとはりついているようにくっついているんですよ。だから、生まれてからしばらくは、何をするときも、お腹にぶらさがってじっとしていますが、２カ月ほどして手足がしっかりしてくれば、さあ大変。いろいろなものに興味を持ち始め、私のお腹から少し離れては、今まで見たこともなかったものに触ってみたり、口へ入れてみたりと、私をヒヤヒヤさせてくれます。でもこうして一人前のサルになっていく姿は、また見ていて楽しいものですよ。だから皆さんも、この双子の成長していく姿を見守ってあげてくださいね。」

（島田幸宜）

もう神戸の生活

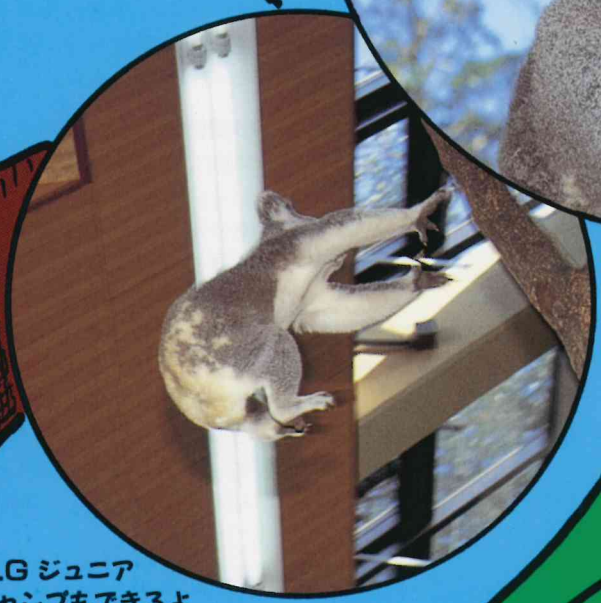
もても

弟になれました

・ウインクもするよ

・いい顔してるでしょう

元気です



M.G ジュニア
・ジャンプもできるよ

飼育うらばなし

コアラ奮戦記

〈コアラ飼育の不安〉

昨年の８月に、田伏飼育係員と私はオーストラリアのクイーンズランド州にあるカランビンサンクチュアリーを訪れました。目的はコアラの飼育実習です。

神戸市の友好姉妹都市であるブリスベーン市からコアラが贈呈されることになってから、王子動物園ではいろいろな準備があわただしく進められてきました。すでに、兼光飼育係員も含めてコアラ飼育担当の３人が国内の動物園での実習を終えていましたが、贈呈される個体の現地での飼育状況を知る必要があったのです。

オーストラリアへ向かう機内では冗談を言い合っていた私たちですが、心の中は不安でいっぱいでした。なにせ、コアラは動物の中でもとりわけ神経質で、「ストレス症候群」という病気ですぐに弱ってしまうことが知られています。国内でも、すでにいくつかの動物園で飼育されていますが、どこでもかなりの気の使いようです。そのような動物をこれから神戸で飼育できるのだろうか。国内で栽培するユーカリの葉を食べてくれるのだろうか。長時間の空と陸の旅に耐えられるのだろうか。などとさまざまな疑問がわいてきました。

〈のんびりと流れる時間〉

カランビンサンクチュアリーは、クイーンズランド州の南端にある自然保護区で、オーストラリア原産の鳥類や哺乳類が飼育されています。園内は広々として緑が美しく、動物舎の中にも植物や岩や水がうまく配置されて自然をかもし出しています。カンガルーは放し飼いにされていました。このような自然に恵まれた保護区の中では、時間がとてもゆっくりと流れているように感じられ、それは後でオーストラリアの国と人に対してもった印象と同じでした。そして、コアラがなぜストレスに弱いのかも分かるような気がしました。

とにかく、コアラの飼育実習はこんなのんびりとした雰囲気のなかで行われました。私たちの目から見れば放任とも見える飼育方法でしたが、ユーカリの選別や、コアラの保定技術、麻酔法など多くの学ぶべきことがありました。そして実習も終わりに近づいた頃、あるオーストラリア人が微笑みながら言った、「“KKSS（コアラ飼育係ストレス症候群）”に負けずにがんばりなさいよ。」という励ましの言葉に少し気を楽にして８月末に帰国しました。

〈コアラが神戸にやって来た！〉

昨年の９月12日、３頭のコアラが王子動物園に到着しました。名前はM.G. ジュニア(雄)、ジェンマ(雌)、そしてマディー（雌）です。このうちジェンマは、長旅の疲れのためか、新しい環境に驚いたのか、緊張してユーカリもあまり食べませんでした。体重も下降気味で、同行したオーストラリア側の担当者ともども心配していろいろな対策を考えました。ひとつは、自然の中の雰囲気を出すために、オーストラリアの森の環境音をテープで室内に流すことです。さらに、部屋の中をユーカリの香りで満たすために、床いっぱいにユーカリの葉を敷き詰めました。そして、飼育係が交代でコアラ舎に泊り込み、行動をビデオで観察・記録しました。このような努力のかいがあってか、１カ月後には落ち着きを取り戻し、日本産のユーカリも好むようになり、一同ほっとしました。

〈子ども誕生への期待〉

コアラたちが来園してから４カ月がたち、私たちの緊張もしだいに和らいできました。しかし、コアラの体重やユーカリの採餌量の変動にはいまだに一喜一憂しています。

最近、コアラの子どもの誕生についてよく質問を受けます。私たちも早くかわいい子どもの姿を見たいのですが、３頭のコアラがまだ若いのと、健康などのことを考えて、この希望をもう少し先に延しています。ですから皆さんも、あせらずに待っていて下さい。あのオーストラリアののんびりペースでね。　（村田浩一）

ふれあい広場のウサギたち

もうみなさんは、ふれあい広場に遊びに来られたでしょうか。ここで一番の人気者はなんといってもウサギ。今回は、この小さな人気者のお話です。

絵本の中では、ウサギはおとなしくて優しい主人公として登場することも多いようですが、どっこい、彼らは活発でなかなか気が強いのです。子供に抱かれていても、じっとしていられなくてスルリと腕からとび降りてしまったり、仲間を追いかけてオニごっこよろしく走りまわったりします。

大きな声では言えませんが、時々、ふれあいコーナーのサークルから脱出するものもいます。ある時、ふと気付くとロバの運動場でウサギが穴を掘っているではありませんか。逃げ足の速いウサギのことですから２人がかりでつかまえようとしたところ、ひょこひょことサークルの前まで走っていき、自分から石づくりのふちの上に跳びのって、元いた場所に戻っていったのです。

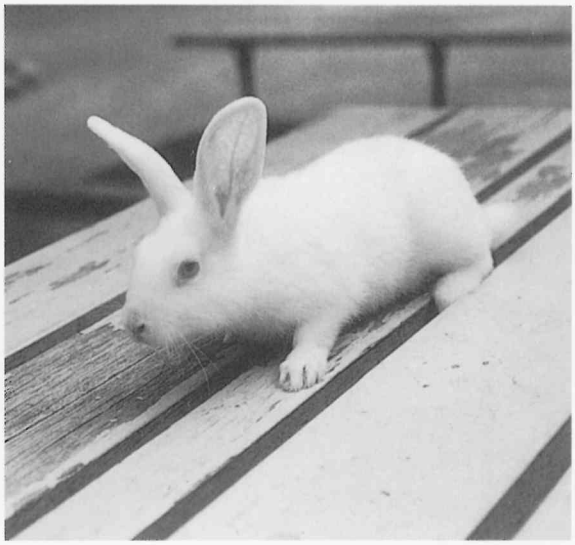
こんなこともあります。後ろ足で立ちあがってサークル内から外の様子をうかがっているウサギがいました。脱走の常習犯です。案の定、ぴょこんとふちに跳びのり、再び立ち上がって周囲を見まわしています。見ていた私と目が合うと彼（オスのウサギです）は知らん顔(？)でサークル内に戻っていくのです。まるで“チェッ、見ていたか”とでも言っているかのようです。

ウサギはもちろん人間の言葉を話せるわけではありません。けれど注意して見ていると、ウサギがおこっていることに気が付くことがあります。“目をつりあげておこる”という表現がありますが、ウサギたちもおこると目に表れます。にらみつけているようなこわい目つきになるのです。こんな目をしたウサギの口元に短く切ったワラを差し出したとしましょう。“どけてよ！”と言わんばかりにワラにかみついて奪い取ると横の方に投げすててしまいます。ふれあいコーナーでは、このようなウサギには早々に退場命令が出されます。ゆっくり休んで落ちついたら再び登場となるわけです。

みなさんに抱かれたり、触られたりしていたウサギたちは獣舎に戻るといっせいに毛づくろいをはじめます。首をうしろにまわして腰のあたりの毛をなめたり、両前足を使って、口元を手入れしたり、片耳ずつつけ根の方から先の方へはさむようにしてひっぱったりする仕草は見ていると楽しいものです。

少しの間立ち止まって観察すると、みなさんにもいろいろなウサギの表情が見えてくることでしょう。どうぞこの小さな人気者に会いに来てください。

（小出美紀）



—動物なぜなぜ問答—

カバのプールはきたない？

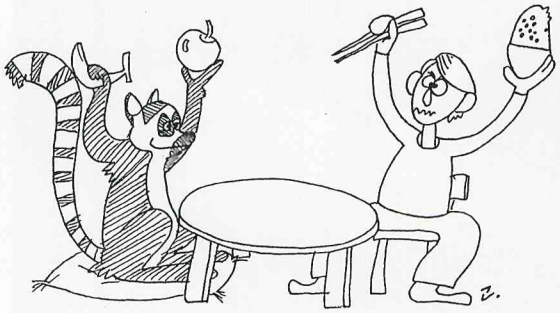
王子動物園ではカバとサイをとなり合わせで飼っています。ある時、お客さんからお叱りを受けたことがあります。「いつ来てもカバのプールはにごっているし、サイはきたない。」と。ちょっと待ってください。これにはわけがあるのです。

カバはしっぽを左右に振りながらフンをまき散らします。この行動は自分の「なわばり」を示すためといわれています。陸の上でも水の中でもおかまいなしです。プールの水をかえてもすぐによごしてしまいます。

サイは泥浴びを好みます。虫刺されなどから身を守るためです。泥がじゃまになって虫が刺せなくなるからです。サイでも虫に刺されるとかゆいし、伝染病などもうつされます。その知恵に驚くばかりです。

動物園ではきれいに見てもらうため、また、動物の健康を守るため、いろいろ気を配っていますが、動物の習性までは変えられません。動物の気持ちになって観察してみてください。

（梯　英喜）



サルには利き手がありますか？

これまで、ヒト以外の霊長類には利き手がないと考えられていました。でも、行動の研究が進むにつれ、サルの中でも左右どちらかの手を特によく使う集団のいることが分かってきました。

ワオキツネザルが物をつかむ時には、左手を使うことが多いと報告されています。また、野生のチンパンジーでは、道具を使う手が、個体によってはっきりと分かれているそうです。手や指先をうまく動かせることと、利き手にはなにか関連がありそうです。そういえば、王子動物園のレッサーパンダも、笹を握る時には利き手を使っているようです。

道具の使用や、言葉や数の理解など、ヒトだけが持つと思われていた能力が、類人猿やイルカなどで認められてきています。万物の霊長であるヒトは、動物たちに一体何を誇ればよいのでしょうか。

（村田浩一）

動物もの知り手帳

動　物　界

普通、動物界というとほ乳動物ぐらいしか、頭に浮かびあがってきません。しかし、この世界には、原生動物門から始まって、地球上最大のシロナガスクジラまで気の遠くなるような数の動物が存在し、その総称になっています。

動物園で働いていると、動物という言葉の関係上から、入園者に生物について種々の質問を受けます。カタツムリは何に属するのですか、とか、サソリは昆虫ですか、とか。我々はそのつど、この動物界の分類を頭の中に浮かべて答えなければなりません。先人は動物界を24の門に分け、カタツムリは軟体動物門、マキガイ綱サソリは節足動物門クモ綱というように分けています。動物を分類することは共通の認識を得るということで大切なことです。このように、生物をその形態などから分類してきた科学者の素晴らしさに驚きと敬意の念を感じます。我々ヒト科の属するほ乳類は脊椎動物門に属し、この中には３亜門あり、その中の四足動物亜門に属します。そして、この四足動物亜門にほ乳類綱が含まれます。また、このほ乳類綱にはウサギ目など20目に分類され、やっと動物園に展示している動物達の顔がその名と同時に浮かんできます。このほ乳類は約 4,000種もの動物に分けられます。王子動物園はこの内、ほ乳類に関して69種展示しています。この69種の動物を毎日見ているだけでも原生動物から進化し、大きな動物に至るまでの推移を目のあたりに見るような気がします。生き物の始まりが一つの細胞からなり、最終的には我々人間まで続いてることを体で理解できるようになります。

特にチンパンジーやゴリラなどを見ていると獣と人間とが本当に続いていると感じます。餌を我々に分けてくれるチンパンジーや麻袋を布団と同じように敷いて寝るその仕草を見ていると、そばに一人の人間がいるような錯覚におちいります。彼らは言葉を話すことはできません。しかし、手話で、私は悲しいとか、嬉しいとか、彼らの気持ちを表現する能力を持っています。こうした事実を知ると、それでは人間とは何か、と改めて調べてみたくなります。あわてて動物分類書を見ると霊長目12科の内の一つにヒト科がありゴリラなどの属するショウジョウ科の次に出てくるのを発見します。人間も動物であることを改めて知らされます。このヒト科の中にはヒト属というのがあってピテカントロプス、シナントロプスが含まれています。また、ヒト（ホモサピエンス）の中にはホモハビリス（脳容量 680cc）やジャワ原人、ネアンデルタール人が含まれます。これらの人間が現在に生きていたら原人という言葉どおり人と動物の関係がもっと鮮明になったことでしょう。

こうしてみると種の絶滅は今に始まったことではないのですが、一つの種が無くなることは人間と動物のつながりを失うようで寂しいです。

（加納　至）

（アカエリマキキツネザルの子）

動物科学資料館の手引⑩
～楽しく見るために～

◆動物の心と体　(4)動く

動物は歩く姿ひとつとっても、同じではありません。逃げたり、獲物をとらえるために動物の体は、それぞれにあった形をしています。今回は動物の動きにスポットをあて、ヒトと比べながら動物の進化の道すじをたどってみましょう。

1．足あと

館内の床をよく見ると、あちらこちらに動物の足あとが見つかります。足を重ねて、大きさ比べをしてみましょう。ゾウ、サイ、カバはさすがに大きな足あとですね。重い体重を支えるのに、丸く大きな形をしています。キリン、ウサギなどは足を追ってみてください。足の長いキリンの歩幅はさすがに大きいですね。足あとは動物によってそれぞれ違っています。野外では、足あとからこのあたりにどんな動物が、どんな生活をしているかなどいろいろなことが分かります。だから足あとは、動物の「第二の顔」とも考えられますね。

2．跳躍（とぶ）

アニマルレースの上方の壁で、カエルやカンガルーたちが、ジャンプ比べをしています。カンガルーは後ろ足が大きく発達し、二本の後ろ足でけって12ｍもジャンプすることができます。また、カエルは小さいのに５ｍもジャンプできます。あなたも０ｍのところに立って、ジャンプしてみてください。動物たちのジャンプ力のすごさが実感できるでしょう。

3．走る、歩く

スイッチボタンを押すと、スリット（細いすき間）の入った円盤が回ります。そのスリットからのぞくと、円盤の外側に動物たちの走る姿、内側に歩く姿が見えます。

ダチョウは強い２本の足で地面をけって、長い首でバランスをとりながら走ります。また、シマウマが歩くときは、それぞれ対角線にある足をほぼ同時に動かします。全力で走るときは、ギャロップといい左前→右前→左後ろ→右後ろ足の順番で持ち上がり、一瞬地面から４本の足が離れます。ひづめはヒトの中指のつめにあたり、より速く走るために進化したものです。キリンと同様にラクダはウマよりもっと足が長いため、ウマと同じ歩き方をすれば、すぐ後ろ足と前足がぶつかってしまいます。そこで、体の同じ側にある二本の足をほぼ同時に動かし、側対歩と言われる歩き方をします。

4．アニマルレース

資料館で人気No.１は、このアニマルレースです。自転車に乗って、動物たちと走る競争が体験できます。「スタート！」の合図でレース開始。ランプの点灯がそれぞれの走っている位置を示します。チーター、シマウマ、キリン、ライオン、ゾウ、それに自転車に乗った少年と強敵ぞろいです。早くもチーターは先頭にたち、アッという間にゴールイン！シマウマ、ライオン、キリンも続いてゴール。最後に残ったゾウと自転車の少年との争いになってしまいました。少年は息をはずませ、がんばっています。何とかゾウと同時にゴールです。この少年のように、楽しく、遊びながら動物たちの走る速さが体験学習できます。また、幼児向きの小さな自転車もあります。ブタやウシたちとも競争してみてください。

（安宅範子）

トピックス　（平成３年７月～４年２月）

◈夏休みの催し

８月１日から６日にかけて夏休みの恒例行事であるサマースクールを開催しました。第21回目を迎えた今回は、「今年生まれたペンギン・ユキヒョウ」をテーマに行い市内の小学生 343名が参加しました。その他にも８月８～９日に「動物絵画教室」、８月13～16日に「お盆休み動物アニメ映画大会」など数々の催しを行い、たくさんの人が参加しました。

◈コアラ来園

９月12日にオーストラリアのカランビン自然保護区から２日間の旅をしてコアラがやってきました。オスの（M.G.ジュニア）メスの（マディー、ジェンマ）の３頭です。また、コアラの輸送に同行して、オーストラリアから獣医１名と飼育員１名も来園し、コアラが落ち着いたのを見届けてから帰国しました。

（P10に関連記事）

◈特別展「オーストラリアの自然と動物たち」

（平成３年10月３日～４年２月29日）

「動物とこどもの国」のメインであるコアラにちなんで、その故郷であるオーストラリアの自然や動物の生態等について写真パネルや映像により、分かりやすく紹介しました。

◈「動物とこどもの国」オープン

王子動物園開園40周年記念事業として、当園の西隣に建設を進めていた「動物とこどもの国」が完成し、平成３年10月11日㈮にオープンしました。ここは、コアラ舎・リスと小鳥の森・ふれあい動物ゾーンなど楽しい施設でいっぱいです。

◈コアラ贈呈式

オーストラリアのブリスベーン市長とカランビン自然保護区の代表団が来園し、10月25日にコアラ贈呈式を行いました。

◈「さる年」賀状版画コンクール開催

平成４年の干支である「さる」をテーマに版画を募集しました。今回は、前年より約900点も多い2,332点の応募がありました。その中から特別賞７点（裏表紙に写真）、金賞30点、銀賞100点を選出し、１月15日に動物園ホールで表彰式を行いました。また、応募作品の全点を、動物科学資料館に展示しました。

◈新しい動物たち

フェネック（７／22）、ナイルワニ（８／14）　コアラ（９／12）、マーラ（９／25）、マナヅル（９／26）、ヨーロッパアカリス（10／１）、コウライリス（10／１）、コイカル（10／１）、アムールトラ（10／22）、キレンジャク（11／14）、ホッキョクグマ（11／16、１／20）、ジャガー（２／５）、

「さる年」賀状版画コンクール特別賞作品

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

上段（左より）

神戸市長賞
①神戸市中央区……若生　公也さん

王子動物園長賞
②鈴蘭台中学・３年……山本　尚美さん

神戸新聞社賞
③御影北小学・５年……永江　夏子さん

下段（左より）

サンテレビジョン賞
④太子東中学・３年……礒脇　宏史さん

神戸市教育委員会賞
⑤板宿小学・１年……出宮　ちえさん

神戸市動物愛護協会長賞
⑥三木市緑が丘幼・５才……いしもとさちこさん

神戸王子動物園協会賞
⑦明石市……高尾　正義さん

◆編集後記◆

念願の「動物とこどもの国」が昨年10月オープン。コアラ舎、リスと小鳥の森、ふれあい広場……どこも人気いっぱい。子どもたちの歓声が聞えてきます。我々職員一同、開設までの苦労が吹き飛んだようです。

動物園再編整備計画も本格化し、新たな挑戦が始まります。5月には中国から金絲猴（孫悟空のモデル）が来園。お楽しみに！

URBAN RESORT FAIR KOBE'93

KOBE OJI ZOO

はばたき　第31号

平成４年３月20日発行

編集：神戸市立王子動物園
TEL.（078）861－5624

発行：㈶神戸王子動物園協会
TEL.（078）801－5711
神戸市灘区王子町３丁目１

印刷：梶原出版印刷合資会社